

お知らせ



- ASA-IM は、先月 15 日(月)、パン技術研究所と共催で大豆を利用したおいしくヘルシーな新製品開発を目的に、製パン・焼き菓子業界向け大豆加工原料セミナーを開催しました。
- 6/30 付、USDA 報告によると 2009 年のバイオテック作付面積は昨年より 1%減の 91%。バイオテック大豆作付開始以来、初の減少。(↓表参照。■ハイライトが Non-GMO 作付増加州、増加率。)
- 来月 10 -15 日まで中国、北京にて World Soybean Research Conference VIII - Soybean Industry Forum(世界大豆研究会議 VIII-ソイビーンインダストリーフォーラム)が開催されます。内容は、大豆の国際貿易、サプライチェーンにおける安全性、サステイナブルな大豆生産、バイオテクノロジー、飼料・食品における大豆の役割等。 <http://events.soyatech.com/conference.php?cid=8>
- ← 写真は今月 3 日に新発売された大豆ケーキ。小麦粉、砂糖無使用、低GI値。(創業明治 13 年 神林堂 <http://www.shinrindo.com/about/>)

2008-2009 アメリカ大豆 主要州作付面積、バイオテック作付比率



州	バイオテック作付面積 (%)		作付面積 (1000 エーカー)		Non-GMO 作付面積 増加率 (%)
	2008	2009	2008	2009	
AR (アーカンソー)	94	94	3,300	3,400	0
IL (イリノイ)	87	90	9,200	9100	-3
IN (インディアナ)	96	94	5,450	5,500	+2
IA (アイオワ)	95	94	9,750	9,800	+1
KS (カンザス)	95	94	3,300	3,600	+1
MI (ミシガン)	84	83	1,900	2,000	+1
MN (ミネソタ)	91	92	7,050	7,200	-1
MS (ミシシッピー)	97	94	2,000	2,200	+3
MO (ミズーリ)	92	89	5,200	5,400	+3
NE (ネブラスカ)	97	96	4,900	4,500	-1
ND (ノースダコタ)	94	94	3,800	4,050	0
OH (オハイオ)	89	83	4,500	4,600	+6
SD (サウスダコタ)	97	98	4,100	4,350	+1
WI (ウィスコンシン)	90	85	1,610	1,640	+5
Oth Sts (他州)	87	87	-----	-----	0
US (全体)	92	91	75,718	77,483	+1

USDA 2009

米国農務省発表 2009年 アメリカ大豆作付面積 (The National Agricultural Statistics Service -NASS)

- 作付面積は史上最高の7750万 エーカー。 昨年より2%アップ
- 予測収穫面積は7650万 エーカーで昨年より3%アップ
- 2008と比較して20万エーカー又はそれ以上作付面積が増加した州
⇒ カンザス、ミシシッピー、ミズーリ、ノースダコタ、サウスダコタ
- 2008と比較し作付が最大に減少した州 ⇒ ネブラスカ 40万トンエーカー減少
- 作付面積史上最高を記録した州
⇒ カンザス、ニューヨーク、ノースダコタ、ペンシルベニア



ASA-IM JAPAN 発行
 HP: <http://www.asaimjapan.org/>
 Food Marketing: Masi Tateishi
 担当: 立石雅子
 E-mail: Tateishi-asaimjp@gol.com